

総合型放課後事業のアンケート・モニタリングの結果報告について

1. アンケート調査

調査の趣旨	総合型放課後事業はアンケート等の調査を実施し、その結果を基に、運営内容の向上に努めることになっており、満足度とニーズを把握するため、全校でアンケート調査を実施しました。
実施方法	インターネット

	事業	令和6年度	令和7年度
実施日	留守家庭児童会室	10月28日（月）～11月11日（月）	11月19日（水）～12月10日（水）
	放課後オープンスクエア		
	枚方子どもいきいき広場	6月10日（月）～6月30日（日）	
対象者	留守家庭児童会室	入室児童と保護者	
	放課後オープンスクエア	登録児童と保護者	
	枚方子どもいきいき広場	全児童	全児童と実施団体
周知方法	留守家庭児童会室	コドモンで一斉周知、職員による声掛け	コドモンで一斉周知、紙のチラシ配布、職員による声掛け
	放課後オープンスクエア		
	枚方子どもいきいき広場	市ホームページ、広報ひらかた、SNS、コドモンで一斉周知、学校から（タブレット端末）	コドモンで一斉周知、学校から（タブレット端末）、実施団体による声掛け

※令和6年度枚方子どもいきいき広場のアンケートは、令和7年3月策定の枚方市児童の放課後を豊かにする行動計画策定にあたって実施した、児童の放課後に関するアンケート調査から抜粋したものです。

(回答数と回答率)

事業	対象	年度	総数	回答数	回答率
留守家庭児童会室	児童	R6	3,930	2,132	54%
		R7	3,984	2,399	60%
	保護者※ ¹	R6	3,930	1,958	50%
		R7	3,984	1,962	49%
放課後 オープンスクエア	児童	R6	7,635	1,659	22%
		R7	7,816	1,440	18%
	保護者※ ¹	R6	7,635	2,232	29%
		R7	7,816	1,846	24%
枚方子ども いきいき広場	児童※ ²	R6	19,543	3,778	19%
		R7	19,167	3,435	18%
	実施団体	R7	44	38	86%

※¹ 総数については、児童1人あたり保護者1名の登録としているため同数となっています。

※² 枚方子どもいきいき広場の平均参加人数は27.1人（/回）です。

(満足度の集計)

事業	対象	年度	肯定的な回答	どちらでもない回答	否定的な回答
			とても楽しい まあまあ楽しい 満足している まあまあ満足している	ふつう どちらともいえない	あまり楽しくない つまらない やや不満がある 不満がある
留守家庭児童会室	児童	R6	78%	17%	5%
		R7	94%		6%
	保護者	R6	91%	6%	3%
		R7	97%		3%
放課後 オープンスクエア	児童	R6	72%	20%	8%
		R7	88%		12%
	保護者	R6	79%	16%	5%
		R7	92%		8%
枚方子ども いきいき広場	児童	R6	94%		6%
		R7	95%		5%

【アンケート調査のまとめ】

児童

＜評価＞

いずれの事業でも肯定的な評価は高い結果となりました。枚方子どもいきいき広場について、今後希望する活動内容として工作・実験、クッキング、スポーツが多く挙がり、「次回の企画を楽しみにしている」「家庭では体験できない活動ができる点が良い」といった肯定的な意見が多く寄せられました。

＜改善を求める声（児童会室・オープンスクエア）＞

- ・ 本や漫画、おもちゃの不足
- ・ 室内が騒がしい
- ・ 学習スペースと遊びのスペースの区分をしてほしい
- ・ 施設が狭い、古い

保護者

＜評価＞

いずれの事業でも肯定的な評価は非常に高い結果となりました。主な評価理由としては、安全・安心であることや子どもが楽しんで参加していることです。

＜今後の事業充実に向けた要望＞

- ・ (児童会室)施設・設備の改善、三季休業期における昼食サービスの継続、体験活動の充実、本やおもちゃの充実
- ・ (オープンスクエア)施設利用の充実、本やおもちゃの充実、体験活動の充実

枚方子どもいきいき広場 実施団体

<活動運営上の課題>

- ・ スタッフの高齢化に伴う人材確保の難しさ
- ・ 幅広い学年が共に楽しめるプログラムづくりの難しさ

2. モニタリング調査

調査の趣旨	総合型放課後事業の実施状況について、適切な運営が行われているか確認のため、必要に応じて現地検査を行うこととしています。仕様書やマニュアル等に照らして不備が認められた場合は、随時、運営内容の改善を求めるとしており、従事者はこれに対応するものとしています。このため、今年度も全校を対象にモニタリング調査を行いました。	
実施方法	職員による現地検査（臨床心理士、保育士、放課後児童支援員） チェックリストによる採点評価	
対象者	全総合型放課後事業施設	
	令和6年度	令和7年度
実施日	10月21日（月）～11月12日（火）	10月6日（月）～11月19日（水）

(モニタリング実施結果のまとめ)

調査項目	令和6年度	令和7年度
<p>児童との関係づくり・保育内容</p>	<p>令和5年度調査時よりも、支援員が児童の主体的な遊びを見守り、より積極的に児童と関わっている姿がありましたが、カウンター越しや遠くからの声掛け・見守りを依然として行っている室もありました。</p> <p>令和5年度調査時は、留守家庭児童会室と放課後オープンスクエアの児童と一緒に遊べるような働きかけが乏しい、外遊びの時間が十分に確保できていない等の室が多くありましたが、令和6年度調査時にはおおむね改善されていました。</p> <p>「15時に児童全員でおやつをとる」といったルールを令和6年度から見直し、児童会室に帰宅してすぐにおやつと宿題を済ませた子から外遊びができるように運用を変更したところ、多くの室で外遊びの時間確保につながっていました。そのほか、あそびの提案ポストを設置する、こども会議を開催し司会や書記を児童に任せている等、児童の主体性を重視した取り組みを行っている室がありました。一方、「折り紙は一日一枚まで」「みんなで正座でいただきます・ごちそうさま」「運動場へ出るために、児童が並んで支援員の許可を待っている」等、主体性の尊重に欠ける管理的な運営も一部ありました。</p>	<p>登室後に宿題やおやつ、遊びを児童が自ら選択して行動する姿が日常的に見られ、自然に主体的に過ごせる環境が整えられている室が複数ありました。そのほか、職員が児童に寄り添った声掛けを行い、イベント等への主体的な参加や役割分担を促している様子が確認され、児童が企画・運営に関わるなど、主体性を育む取組が行われていました。</p> <p>児童が感じたことや学校での出来事を職員に気軽に話す姿があり、日頃から良好な関係性が築かれていました。さらに、意見箱の設置やアンケートの実施、ルールづくりへの参画など、児童の意見を聴く工夫も行われています。</p> <p>一方で、最終的な判断が職員主導になりやすい場面もあり、今後は児童の思いや意見がより保育や活動内容に反映されることが求められます。</p> <p>また、児童の見守りや保育の考え方について、職員全体で共有し、具体的な場面を想定しながら対応や声掛けについて話し合いをしたり、職員の役割分担を明確にし、指示・調整・報告を行いながらチームとしての運営を意識している室がありました。</p> <p>一方で、考え方の共有にとどまり、実践するには至っていなかったり、限られた職員に役割が集中している状況もありました。</p>

調査項目	令和6年度	令和7年度
環境整備	<p>座卓や保育用マットを活用して、おやつを食べる、宿題をする等の用途に応じたスペースの区分けを行っている、高学年の児童と相談し女子トイレに生理用品を設置している等、制限がある中でも随所に環境整備の工夫を行っている室がありました。一方、必要のない棚が置いてある、机やロッカーのコーナーガードが外れている等、環境整備を十分に行えていない室もありました。</p>	<p>ビーズクッションやマットを広く設置する等の工夫が行われ、児童がゆったりとくつろげるスペースを確保し、定期的な配置換えを行いながら環境改善に取り組んでいる様子がありました。児童の活動スペースをさらに広げる工夫が必要な室もありましたが、多くの室で昨年度よりも改善されていました。</p>
配慮を要する児童	<p>配慮を要する児童に専属の加配職員が付き良好な関係を築いている、学校や枚方子ども発達支援センターと十分な情報共有ができています、個別に日常の記録を残している、周囲の刺激を減らして落ち着けるスペースを用意している、職員間で声掛けの仕方の振り返りを行う等、児童の気持ちに寄り添った保育が行われていました。</p>	<p>個別に落ち着いて過ごせるスペースの確保等、児童の気持ちに配慮した取組がされ、児童の特性や発達段階に応じた適切な支援についても、一定の配慮が行われていました。また、配慮が必要な児童への対応について、職員間で綿密な共有が行われており、小さな変化についても共通理解を図りながら保育が行われていました。</p> <p>一方で、見守り対象児童は年々増加しており、特に高度な対応を要するケースについては、対応が十分に行き届かない場面が一部ありました。職員間での連携を強化し、課の専門職による巡回での助言内容を確実に共有・実践する等、室全体で各児童の状況に応じたより一層適切な保育の実施が求められます。</p>

3. アンケート調査とモニタリング調査結果への対応

学校ごとに実施したアンケート調査の結果と、モニタリング調査を合わせて分析した結果、全体として概ね適正な運営が行われていることを確認しました。調査終了後は、調査結果を各児童会室にフィードバックし、指摘事項の改善に向けた取り組みを進めています。

施設・設備面については、不必要な什器の撤去によるフリースペースの確保をはじめ、照明のLED化、通用門のオートロック化、トイレの改修など、安全性と快適性の向上を目的とした環境整備を随時実施しています。

また、児童との関わり方については、この間実施してきた研修等を通じて、職員の意識の向上がみられ、子どもの権利を尊重し、子どもの思いに寄り添うという考え方が、現場において徐々に定着しつつあります。

あわせて、児童の主体的な活動を支援する声掛けや、児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた関わりが行えるよう、放課後児童支援員、保育士、臨床心理士などの専門職が巡回し、助言・指導を行っています。

今後も、運営状況や環境面について継続的な点検と改善を行いながら、すべての児童が安心して過ごせる、よりよい放課後の居場所づくりを進めていきます。